

温かみのある三浦焼の魅力

工房G第11回作品展(10月9日から16日)

工房Gを主宰するのは、三浦市の元中学校美術教師だった角野竹博さんです。現職のとき、体育祭での出場者紹介のアナウンスで「角ジイこと角野先生を先頭に入場です」と言ったときみんながわっと沸いたことがきっかけで角ジイが愛称となりました。工房の名前は、この教師時代を懐かしんで当時の角ジイの愛称を使い工房Gと名づけたそうです。

工房Gには、いろいろな人がやってきて自分の好きな作品を作ります。「メンバーが好きなことを選択してやる」のが方針です。それぞれが陶芸や彫刻など独自の作品作りにとり組み仲間の絆も自然と深まります。好きな焼き物や彫刻などに取り組む穏やかで温かい角野さんの人柄も関係するのでしょうか、メンバーはみんな温厚で製作中も会話あり笑顔ありです。

角野さんが考案した三浦焼は、三浦市内で採った土をはじめ、うわぐすりには木やマグロの骨、ワカメ、ダイコンなども素材として使います。土とうわぐすりの素朴な風合いが織りなす色や仕上がり感が三浦焼の魅力です。作品の出来上がりは、色やつやが変わることもあり、窯から出す時が楽しみだそうです。仲間たちの作品も美しい色使いや独創的な形があり上達してきています。

また、「増富焼き」は、山梨県北斗市にある瑞牆(みずがき)山の粘土やアカシアの木の灰を材料にし、青みがかった黄色が特徴です。山あいの温泉地で湯治客が多く、土産物や体験教室の開講など、地域資源として活用できたらと、三浦焼きの存在を知った地元事業者からのオファーをきっかけに、角野さんが完成させた作品で好評を得ています。

工房G第11回作品展は10月9日から16日まで。時間は午前10時から午後6時(初日は午後1時から、最終日は3時まで)。会場には三浦焼や増富焼をはじめ、注いだ瞬間に味がまろやかになる「特性三浦焼」の出品。仲間が制作した個性豊かな陶芸や彫刻、賛助出品の木工も展示。コーヒーカップや茶わん、皿などチャリティー販売も実施し遺児育英資金として寄付します。入場無料。



「工房G 第10回作品展」2022.10.17~24実施